

泌 尿 器 科 紀 要

第 3 巻 第 4 号

昭和 32 年 4 月

随 想

第46回日本泌尿器科学会総会開催地が熊本に決つて

熊本大学教授 梶 原 憲 章

本誌読者の殆んどの方は日本泌尿器科学会の会員であられると思いますので、失礼もかえりみず、貴重な紙面を拝借して総会開催についての思いつきを申し上げ、御援助をお願いすることに致しました。

既に皆様御承知の様に楠教授が阪大へ栄転され新潟市での第45回日本泌尿器科学会総会を御辞退になりましたため、評議員多数の方々の御意向にもとずき、明年度は及ばずながら当熊本で御引受けすることになりました。熊本で御引受けするのは、まだまだ先のことと呑気に構えていましたところ、凶らずも突然予想より早く御指定を蒙り実は甚だ狼狽している次第であります。それと云うのは熊本大学医学部は過ぐる戦災のために全基礎教室と病院の殆んど全部が烏有に帰し、更に28年の当市に於ける大水害にも病院亦其の厄をうけ、戦後10年余を経た今日やつと復興の緒についたばかりで、今なお基礎教室は病院と約3kmを隔てました熊本城内の旧予備士官学校跡にあり、病院の方は総合外来が新築の途上、しかも臨床各教室の研究室はまだ再建の目安さえも立っていないと云う有様で、どの教室も辛うじて旧外来の中に入りこみ、旧外来の各室も外来診療室、手術室、医局、研究室が雑居して居るような不完全さを忍んでいるのであります。一例を申し上げますと我々泌尿器科外来は10坪余りの只一室を、カーテンで仕切り、新来も再来患者も、ごつちやに診療し、膀胱鏡検査もそこでを行い、患者待合室には廊下をあて、予診室と2部屋の研究室は皮膚科と共同、手術には整形外科の手術室を隔日に使わしてもらつていと云うまことにお恥かしい状況であります。総会で一番に頭が痛いことは、病院にある講義室は100人あまりしか収容出来ず、それも間に合せのバラック建築で設備など全くお話にならない粗末さであります。従つて総会熊本開催は今暫く待つていただいて、せめて東京の次か、その次くらいに御願ひしたいと云うのが私共のいつわりない御願ひであり、希望でもありました。然し乍ら、よく考えてみますと、昭和19年、恩師三宅勇先生を皮膚科学会々頭として、当時長大学教授であられた恩師北村包彦先生を泌尿器科学会々長として、熊本で開催されることになつて、既に来会の方々の宿舎の割り振り、その他殆んどの準備が完了して居つたにも拘らず、敗戦の色は日々に濃くなり、いつ空襲を受けるとも計り難い有様となつて、両先生は御熟慮の上、紙上総会へ御変更になつたことは皆様の御存知の通りであります。その様なわけで熊本では未だ一回も御引受けいたさず、まことに心苦しく存じていた折も折、来年は恩師三宅先生が私共の教室を開かれまして

から満35年になり、教室としてもまことに目出度い記念の年に当つて居りますので、教室員も亦地方会員も数が少く、加うるに会長を務めることになる私自身も微力非才で自信は御座居ませんが、恩師三宅先生始め地方会の有志の方々とも御相談致しまして、不敏をかえりみず敢て御引受けすることに決心致しました次第であります。御来会の会員各位の御満足を戴くことは、到底望むべくもありませんが、懸命に総会を目標に努力いたして居ります我々の衷情をおくみ戴いて、色々不行届の所は前以て御許しの上御協力願いたく存じます。次に総会のあり方に就ては、色々な御意見もおありと存じますし、又従来も会長の御考えて種々な試みも行われて来た様に思いますが、在来7～8分間の短時間に要領良くお話し下さる方も多数あり、中には膨大な資料を詳細なスライドで御示し載き乍ら、時間不足のため充分にスライドを読み了ることすら出来ないで、殆んど了解出来ない御演説もあつた様に思います。学会に出席するからには出来るだけ多くの、立派な業績を拝聴し、これを出来るだけ自家薬籠中のものとするのが目的かと考えます。ことに中央を離れた熊本のような田舎におりますと、最新の知識や一流の学者の方々に接することは平素殆んどありませんので、熊本での総会の際は御来会各位の御演説に大きな期待をもつて拝聴される地方会員や一般医師の方々も、数多いことと考えます。

それで私は、ひそかに、長い間の御研究の結果をまとめて、或る程度充分の時間に講演して戴く特別講演5、6題と、現在最も新しい問題或は緊急重要な問題に就て、造詣深い方々によるシンポジウム2、3題及び開催地変更に関係なく、宿題は楠教授に是非御願ひすることといたし、例年多くの時間がさかれていた一般演説はその演説抄録の内容を具体的に御記載戴き、「……の実験結果について述べる」と云う様な結果の具体的記載のないものは御遠慮願う様にして、多くを紙上発表に譲つては如何かと思つています。

又評議員会も出来るだけ時間の余裕のある様に致しまして泌尿器科学会今後のあり方、専門医の問題、保険のことなど、平素の御考えを充分各自に披歴して戴いて、私達田舎に居る者に目を開かせ、方向を示して戴きたいものと希望して居ります。

同時に学会の目的が、学問だけでなく会員各位の懇親も重要な一つであることは申すまでもありません。幸に熊本には世界一を誇り、絶えず噴煙を吐いている大阿蘇火山がありますし、天草があり、球磨があり、遠くは雲仙、霧島の国立公園、別府の温泉があります。皆様の御旅情をおなぐさめするに事欠く事はないと信じます。御案内も教室員の少いことで、手がとどかない所が多いことと思いますが、全力をあげて御便宜をおはかり致すつもりで居ります。

熊本で始めてであります総会が盛会に、そうして有終の美をおさめることが出来ます様に、皆様の御援助、御協力を切に御願ひ申上げると共に、御遠慮のない御高見をお待ち致して筆を擱きます（昭和32年2月）